

APM news 123

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

新潟日報 夕刊「夢きらめきトーク@niigata」掲載記事

APM学芸員紹介

掲載日:1月10日(土) / 記者: 橋智彦

長岡市出身、絵画好きの父の影響で、物心がついた頃から絵に興味があった。中学生の頃には葛飾北斎の「冨嶽三十六景」など浮世絵に引かれ、木版画の魅力を知ることがあった。グラフィックデザインを専攻していた東京工芸大3年の時、東京で伝統木版画の版元を訪ね、アルバイトをするようになった。職人の木版画技術を見て独学で学んだ。版画のデザイン作品が全国の

「まだまだ今の技術に満足していないので、創作木版画を極めていきたい」と話すたかだみつみさん(長岡市)



「創作木版画」に取り組み

たかだみつみさん(長岡市)

公算費で入選を果たしたこともあった。大学卒業後、そのまま版元に就職した。職人の高い技術に触れながら、次第に「自分の表現したいことをやりたい」と思うようになった。約2年間、販売や企画などの仕事を携わった後、退職して既存の概念にとらわれずに創作

たかだみつみさん(長岡市)は、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。作品のモチーフは草花や道具、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる。彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。

たかだ・みつみ 本名・高田光美。1983年、長岡市生まれ。東京工芸大学芸術学部デザイン学科卒。東京で伝統木版画の版元勤務などを経て、創作木版画家として本格的に活動を開始。長岡市の秋山孝ポスター美術館長岡の学芸員や長岡造形大学の非常勤講師を務めている。

身近な素材 自由に表現



たかだみつみさんの木版画作品。自由な作風が特徴だ。

(長岡支社・橋智彦)

たかだみつみさんは、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。作品のモチーフは草花や道具、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる。彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。

たかだみつみさんは、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。作品のモチーフは草花や道具、地元地域の宮内・榎田屋の風景など多岐にわたる。彫刻刀を使って多色刷の版を複数からシッパクなまでに仕上げた。

新潟日報夕刊記事「夢きらめきトーク@niigata」に於いて、秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) 学芸員のたかだみつみが紹介された。たかだは、創作木版画作品の創作活動を行いながら、2013年4月よりAPMの学芸員を務めている。

ここで、美術館に於ける学芸員の役割について紹介したい。美術館は博物館の一種であり、博物館法に於いて「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。(第4条4項)」と記されている。博物館資料とは、作品をはじめ、それに関わる資料全てのことを指す。学芸員は、まず博物館資料についての専門的知識を持つ必要がある。その他にも、博物館に関する知識や資料の取扱い方、管理、展示の企画・運営、教育普及など、幅広い知識を求められる。日本の博物館に於いて、学芸員が担う仕事の内容はとても多い。一般的に学芸員は「展示室の角でイスに座っている人」と誤解されがちであるが、実際は見えないところで、非常に多くの業務を行っている。

たかだは、現在、APMに於いて教育普及活動のひとつであるワークショップを主に担当している。APMではこれまでに7回のワークショップを開催した。ワークショップは、参加者に美術への関心を高めたり、楽しく美術を学ぶ場である。APMではそれだけではなく、美の女神が宿る神聖な場である美術館に於いて、美術の精神も学ぶワークショップを目指していきたいと考えている。また、周辺地域や人とのコミュニケーションにも重きを置いた内容を心がけている。

学芸員は、博物館資料が好きだという気持ちと熱心な探求心の元、貴重資料の保持伝承という使命を持っている。また、博物館資料という「もの」を対象とするのみならず、「人」や「社会」との関わりが大きく、知識だけでは成り立たない仕事である。(APM 学芸員・たかだみつみ)